

発達 13 (329~336)

座長 青柳 肇・福本 俊

- 329 発達初期における母子交互性に関する研究—15—
——交互過程分析——
お茶の水女子大学 藤 崎 真知代
- 330 発達初期における母子交互性に関する研究—16—
——1. 3. 5. 8. ケ月児における母子交渉の変化——
東京大学 藤 田 芳 正
- 331 発達初期における母子交互性に関する研究—17—
——感覚運動的反応の発達——
日本女子大学 福 本 俊
- 332 発達初期における母子交互性に関する研究—18—
——社会的反応の発達——
立正大学保専 石 井 富美子
- 333 母子家庭の母親および子どもの心理学的研究Ⅳ
——(1) 性別しつけについて
東京都立立川短期大学 青 柳 肇
- 334 母子家庭の母親および子どもの心理学的研究Ⅳ
——(2) 母親の両親の教育と母親の教育との関連——
独協大学 滝 本 孝 雄
- 335 母子家庭の母親および子どもの心理学的研究Ⅳ
——(3) 母親の子どもへの態度と子どもの母親像——
聖心女子大学 鈴 木 乙 史
- 336 児童期における親子関係と性格の類似性
——同一視理論の研究——
和歌山大学 森 下 正 康
- 248 幼児の対象認知行動について
浜松短期大学 岡 村 佳 子

248 の岡村の発表は、10月29日(13:30~17:30)の予定であったが、当日同時刻に同氏がシンポジウム(乳児研究を問う)の提案者であった関係で、急拠、本会場に追加された。

329, 330, 331 に関しては、質問は全く無かった。332 に対し、鈴木(聖心女子大)は、「ストレンジャー場面で、1ヶ月~8ヶ月まで、接触行動が増加しているが、泣きの行動も増加している。これをどのように解釈したらよいか」と質問した。石井は、「月齢が進むにつれ、乳児はストレンジャーに人みしりを起こし、泣きを生じる。また、ストレンジャーが抱いている乳児をおろそうとするとかえってしがみつくとという乳児の困乱した状態がみられる。すなわち、接触行動の中には、交渉相手に接近する行動と回避する行動の両方が含まれてい

るためであろう」と答えた。青柳(都立立川短大)は、「人みしりの生じる前の1~3ヶ月に、泣きの行動が、ストレンジャーの方が母親より多いのは何故なのか」と質問した。石井は、「母親場面では、乳児が泣きをおこしても、母親の方が、乳児の泣きを早く鎮静させようとするためである」と答えた。

333 に対し、福本(日本女子大)より、「母子寮の子どもの年齢(保育園児)から考えると、項目1(勉強をやるようにいう)は、不適切ではないか」との質問があり、青柳は、「保育園でも、教科とはいわないまでも、6領域という課題があること、更に、母親がこの質問に、疑問を抱かなかつたので必ずしも不適切ではないと思われる」と答えた。

334 には質問はなかった。

335 に対して、榎田(中野区立桃園第三小)より、「C CPを母親に適用する場合、どのように教示を変えたのか、更に、それを解釈する場合、評価はどのように行ったのか」との質問があり、鈴木は「林(1973)より教示をやさしくし、子ども用教示を母親向けに修正したものを用了。評価に関しては、分析に用いたカテゴリーは、子どもに対するカテゴリーと同じものであるが、2反応以上の複合反応が出現した場合は、主要な2反応を得点化した」と答えた。

336 には、質問はなかった。

248 に対して、鈴木(聖心女子大)より、「ガラガラの使用が、かなり成長してからもみられるが、個人的な特性(個人差)なのか。被験者は、一人であるのか」と質問、岡村は「ガラガラといっても、他の用途にも使用できる特殊なものであるから、ある程度年齢がいても使用できる。被験者は、T児一人である」と答えた。

福本(日本女子大)は、「父親が8ミリの撮影を、母親がメモをとるという場面を考えると、要求が質問の形をとらざるを得なくなり、場面設定が適切かどうか疑問である」と質問し、岡村は、「そう思うが、そういう質問の形は少ない」と答えた。

青柳(都立立川短大)より、「行動調整(トントン)のかけ声は、本当に行動調整になっているのかどうか、行動調整とかけ声の社会化について詳しく説明してほしい」との質問があり、岡村は、「たたきながら、トントンというのから、行動を起こす前にトントンと用いるようになり、また一方では、行動と同時に使われる語は、ヨイショコラショ(かけ声の社会化)という形に分化していく」と答えた。

(文責・青柳)